

# データ利活用推進に関する 和歌山県の取組について

～ 日本のデータ利活用拠点を目指して ～

## 和歌山県



和歌山県PRキャラクター「きいちゃん」

平成30年4月1日、「政府関係機関の地方移転」の一貫として総務省統計局及び独立行政法人統計センターが設置する「統計データ利活用センター」と和歌山県が設置する「和歌山県データ利活用推進センター」が開所。

【所在地】南海和歌山市駅ビル5F（和歌山市東蔵前丁）



南海和歌山市駅ビル



合同開所式



共通エントランス



最大90名収容の大会議室



コンサルティングルーム

# ～ 日本のデータ利活用拠点を目指して ～

## 基本方針

- I 「和歌山県データ利活用推進プラン」（平成28年9月）において設定された4項目の基本目標を達成するための事業を実施する。
- (1) 日本のデータ利活用拠点の構築 (2) 統計的思考・エビデンスに基づく行政の推進  
(3) データ利活用による県内産業の活性化 (4) 県民の統計リテラシー向上
- II 「政府関係機関の地方移転」の取組により和歌山県に設置された「統計データ利活用センター」が与えられたミッションを達成できるよう、連携・支援していく。

## 担うべき役割

- ① データ利活用の重要性・有用性を発信するための 【情報発信拠点】  
② 証拠に基づく政策立案「EBPM」を推進するための 【分析・研究拠点】  
③ 未来を担うデータ利活用人材を育成するための 【人材育成拠点】  
④ 統計データ利活用センターの活性化を図るための 【連携・支援拠点】

## 具体的な取組

### ① 情報発信拠点

- ▶ データ利活用シンポジウムの開催
- ▶ データ利活用コンペティションの開催
- ▶ ホームページ・SNSによる情報発信

### ② 分析・研究拠点

- ▶ 行政課題解決に向けた分析・研究
- ▶ 民間企業との連携
- ▶ データを利活用した公募型研究（EBPMの促進）

### ③ 人材育成拠点

- ▶ 県民の統計リテラシーの向上
- ▶ 県内の高校・大学等における人材育成支援
- ▶ 民間企業と連携したインターンシップの受入

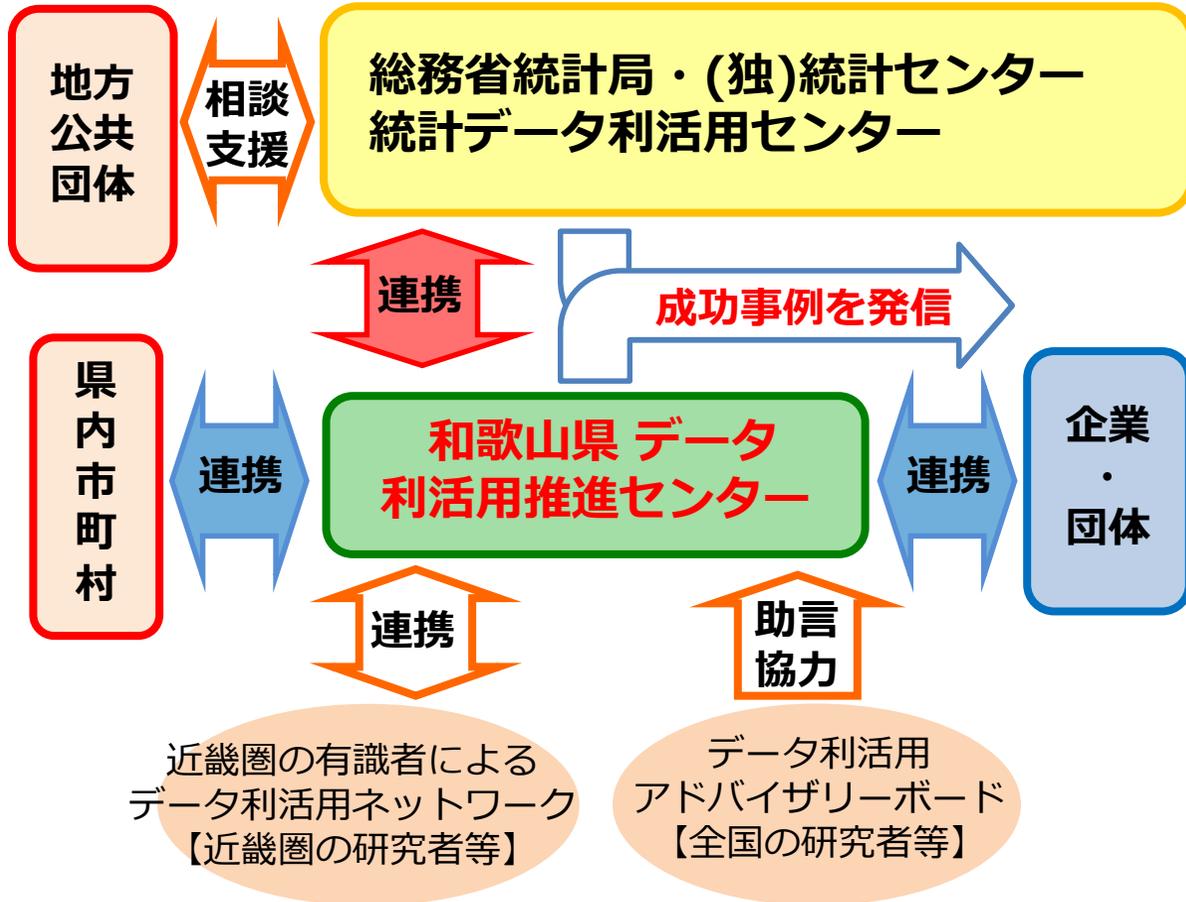
### ④ 連携・支援拠点

- ▶ 研究会等への協力
- ▶ 研究機関等との連携（協定締結）
- ▶ 会議室・コンサルティングルームの維持・管理

# 和歌山県データ利活用推進センターの取組

日本のデータ利活用拠点をめざし、産学官におけるデータ利活用の推進

推進体制（データ利活用推進プロジェクト）



データ利活用推進プラン

データの利活用による産学官のさらなるレベルアップを図る。とともに、本県が日本のデータ利活用の拠点となることを目指して、データ利活用に関する取組方針や指針をまとめた。（平成28年9月）

- データ利活用の促進施策を支援
- 県独自の新たな知見を見いだす研究
- E B P M（証拠に基づく政策立案）
- 行政課題の解決に向けたデータ利活用
- 人材育成  
などを率先して実行し、県内外に向け活発な普及・啓発活動を実施。
- 自治体と研究者が一体となった組織を形成し、行政課題としての視点から産業界の発展に向けた産業、経済の様々な研究・分析を実施。

# 和歌山県データ利活用推進センターの主な取組 ～日本のデータ利活用拠点を目指して～

## 1 情報発信

### 1. データ利活用の重要性・有用性を全国に発信

#### ①シンポジウムの開催（全2回）

※今年度はセンター開設一周年を記念し、国※1、県※2共同開催

「新しい時代のデータ利活用の姿を全国に発信」

※1 総務省統計局及び独立行政法人統計センターのことをいう、以下同じ  
※2 和歌山県のことをいう、以下同じ



#### ②データ利活用コンペティションの開催（全3回）

※全国の高校生・大学生から行政課題に対してデータを利活用した解決アイデアを募集し表彰



#### ③企業相談会の実施や講演依頼への対応

※センターの取組事例の紹介をはじめデータ利活用への相談対応の実施

※81件（企業等51件、市町村4件、教育機関等26件）

## 2 分析・研究

### 1. 公的統計等を利用した先進的な分析・研究

#### ①空き家対策のためのデータ利活用モデルの構築

※国、県、市、東京大学の共同研究プロジェクト

#### ②市町村の産業関連表作成モデルの構築

※オンサイトのマイクロデータ利用の拡大

### 2. 民間企業との連携

#### ①AIを活用したSNS情報の抽出手法の検証

※観光分野における自然言語解析

#### ②秘密計算技術を用いた官民データの融合研究

※データ利活用による産業の活性化の推進  
一橋大学との安全性を確保した秘匿化技術の実用化に向けた調査・研究

### 3. EBPMの促進

#### ①公募型研究の実施（6テーマ実施）

※地方行政の課題解決のための分析研究

#### ②庁内のデータ共有化

※庁内共有基盤を構築し、EBPMを加速

# 和歌山県データ利活用推進センターの主な取組 ～日本のデータ利活用拠点を目指して～

## 3 人材育成

1. 県民の統計リテラシー向上
  - ①小学生向け統計データ利活用冊子の作成  
※令和元年7月 県内の小学6年生(約8千人)に配布
2. 人材育成
  - ①データ利活用集合研修及び出張講義の実施  
※小中学校(延べ72校)、高校(延べ2校)  
高校生向け特別講義(大学レベルの講義)  
\*統計データ分析コンペティション論文において田辺工業高校の生徒が『優秀賞』を受賞
  - ②地元大学と連携した人材育成モデルの構築  
※国、県、大学が連携して協定を締結  
  
データ利活用による価値創造や課題解決を担うデータサイエンス人材の育成等を実施

こうした「次世代を担うデータサイエンス人材の育成」の取組内容が評価され「第4回 地方公共団体における統計データ利活用表彰」にて特別賞を受賞

## 4 連携・支援

1. 支援
  - ①全国的な会議・研修会の開催等に協力
  - ②各種分析研究等審査会等への委員参加
2. 協定締結
  - ①国、東京大学、和歌山市とデータ利活用に係る連携協定(空家分布推定に関する研究) 再掲
  - ②国、和歌山大学とデータサイエンス分野における連携協定(人材育成、データ利活用研究開発) 再掲
  - ③国、滋賀大学とデータサイエンス分野における連携協定(人材育成・交流、高度な分析研究)

## EBPM推進体制の構築

**\*全国初**

1. 管理・運用体制の強化
  - ①EBPM管理者を設置し体制を強化  
※「和歌山県EBPM統括者等設置要綱」を制定
  - ②政策提言フォームにEBPMを明示

# 共用会議室の活用状況

これまでに約2000人が利用  
(内部的な会議等を除く)

## 国主催の会議・研修会等

- ・統計センター 椿理事長による開所記念講演会  
[H30.4.19 参加者100名]
- ・統計データ利活用担当者会議 (各都道府県)  
[H30.6.4 参加者50名] [R1.7.4 参加者44名]
- ・統計データ利活用研修会  
[H30.7.18 参加者50名] [R1.7.25-26 参加者60名]
- ・子供統計プログラミング教室  
[H30.10.13 参加者44名] [R1.8.5 参加者28名]
- ・「Data StaRt Award～第4回地方公共団体における統計データ利活用表彰～」第二次審査会  
[R1.9.19 参加者13名]
- ・その他に海外からの視察団との意見交換会やビッグデータ活用に関する検討会を開催



<開所記念講演会>



<子供統計プログラミング教室>

## 県主催の会議・研修会等

- ・高校生向け特別講義 (大学生レベルの高度な講義)  
[H30.8.21 参加者17名]
- ・地方創生ビッグデータセミナー(NTTdocomoと共催)  
[H30.9.13 参加者70名]
- ・統計データ利活用研修会  
[H30.12.19 参加者29名] [R1.12.20 参加者28名]
- ・データアナライズセミナー (産業関連表の活用等)  
[H31.1.28 参加者28名]
- ・特別講義「高度な統計数理計算」  
[R1.7.30～8.21 計6回 参加者延べ69名]
- ・統計的思考力養成講座 (県職員対象)  
[R1.11.7-8 参加者26名]

## 学会・大学主催の研修会等

- ・経済統計学会セミナー  
[H30.9.12 全国研究大会の一部として開催]
- ・和歌山大学観光学部セミナー  
[H30.12.14 観光とビッグデータをテーマとしたセミナー]

# 波及効果評価指標

波及効果	評価指標	数値目標 (2021年3月末)	実績 (2019年12月末)
データ利活用基盤の構築	①データ利活用推進センターの設置	2018年4月設置	完了
	②データ利活用分析基盤・ネットワークの構築	2019年4月	完了
	③庁内データの把握・共有化	2019年7月	完了
EBPMの推進	①庁内EBPM推進体制の構築	2019年4月	完了
	②県内市町村からの相談件数(累計)	15件	4件
	③公募型研究実施件数(累計)	8件	6件
データ利活用人材の育成	①データ利活用コンペティション応募件数 ※実績は2019年度	200件/回	32件 (過去3回累計180件)
	②学生向け講義・研修会参加者数(累計)	1000人	666人
県内産業の活性化	①県内企業からの相談件数(累計)	60件	38件
	②民間企業データを活用した共同研究の実施件数	1件	1件

# 參考資料

# データ利活用の重要性・有用性を全国に発信(シンポジウムの開催)

## ◇データ利活用シンポジウムの開催(和歌山県民文化会館)

(第1回 平成30年2月10日 第2回 平成31年1月19日 250名参加)

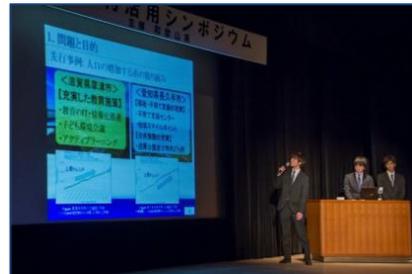
- ・和歌山県データ利活用コンペティション最終審査会・表彰式
- ・基調講演

第1回 SAS Institute Japan(株)

堀田徹哉氏

第2回 日本マイクロソフト(株)

佐藤知成氏



## ◇統計データ利活用センター開設1周年記念シンポジウムの開催

～新しい時代のデータ利活用～ (令和元年7月3日 300名参加)

- ・基調講演(ヤフー(株) 佐々木潔氏)
- ・産学官からのプレゼンテーション
- ・国・県センター取組発表
- ・県データ利活用コンペティション受賞者による記念講演



センター開設1周年を迎えたことを記念して新しい時代のデータ利活用の姿を発信するためのシンポジウム。

# データ利活用の重要性・有用性を全国に発信(コンペティションの開催)

◇全国の高校・大学等を対象とした『第3回和歌山県データ利活用コンペティション』を開催(令和元年11月16日)

- ・募集: 高校の部: 13校14チーム、大学の部: 10校18チーム
- ・『大賞』受賞校  
 高校の部: 長崎県立佐世保西高等学校  
 大学の部: 和歌山大学

全国の高校生、大学生等を対象に、行政課題に対するデータを利活用した解決アイデアを募集。

年度	募集テーマ
H29年度	高校生部門: 観光客を誘客するための施策 大学生部門: 人口減少問題を解決するための施策
H30年度	高校生部門: 高齢者が活躍できる社会づくり 大学生部門: UIターン就職・若者の定住促進
R01年度	高校生部門: 地域の商店街・中心市街地の活性化 大学生部門: 少子・長寿化による地域の消費への影響

〈協賛企業(五十音順)〉

伊藤忠テクノソリューションズ(株)、(株)サイバーリンクス、西日本電信電話(株)、日本電気(株)、楽天(株)、ワイヤ・アンド・ワイヤレス(株)、和歌山県統計協会



# 分析研究（現在取り組んでいる研究テーマ）

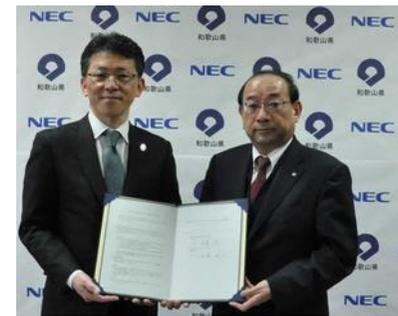
分野	分析テーマ
経済・産業	企業との共同研究案の策定
	産業連関表作成モデル
	就業構造基本調査分析
	求人・求職分析
観光	AIによるSNS情報分析
	全国プロモーション展開におけるターゲット地域の分析
医療・福祉	将来の医療需要の動向調査
	病床機能再編のための現状分析
	医療圏での死因の地域差調査
	子どもの生活実態調査
	就業構造基本調査（介護離職等の離職者調べ）
	自殺死亡率調査
その他	空き家分布推定

# 民間企業との連携

## ◇和歌山県とNECの包括連携協定（平成30年2月22日）

先進のICTとオープンデータなどを活用した地域活性化・観光産業強化・人材育成など幅広い地域課題解決に向けた取り組みを実施する。

和歌山大学からのインターンシップ受け入れや、NECのAI技術を活用し、フェイスブックやツイッター等のSNSから観光地に関するデータを効率よく収集する技術を共同研究中



## ◇NTTコミュニケーションズ株式会社とデータサイエンス分野における連携協力に関する協定（令和元年9月9日）

異なる事業者（自治体や企業、研究機関含む）が保有するデータを秘匿化したまま相互に統合・分析を行い、結果のみを出力することが可能な技術（秘密計算）を用いて、データを集積し、産業の活性化や社会的課題の解決および、データ利活用のための人材育成に関する実証実験を実施する。

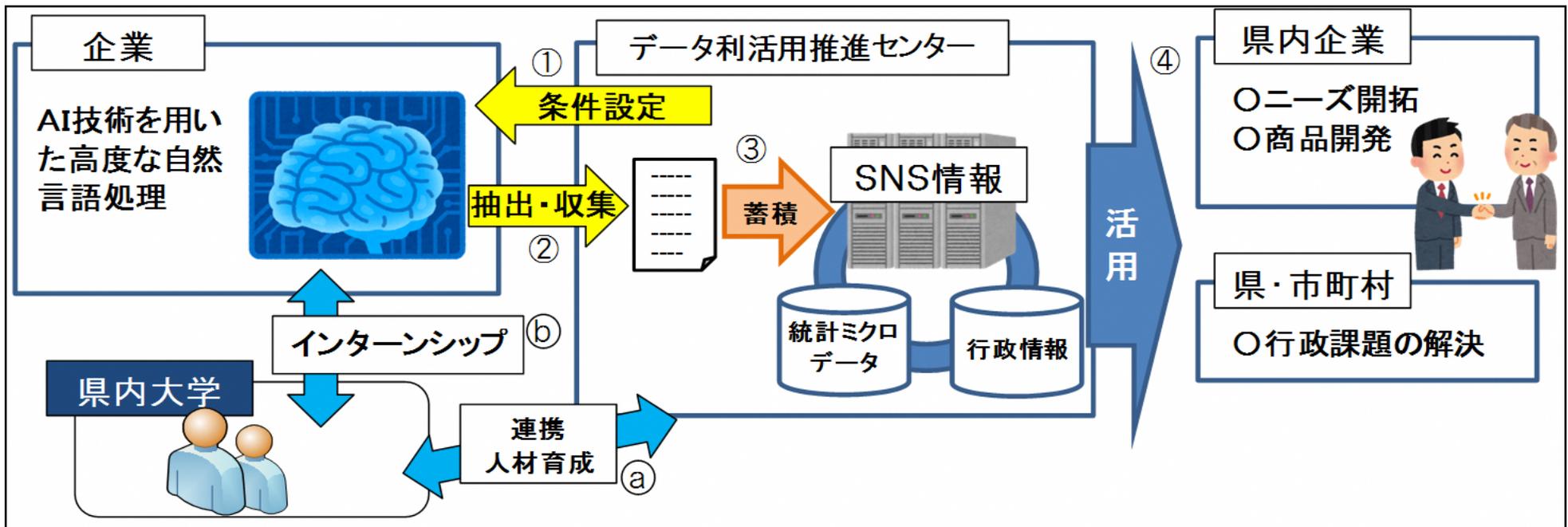


# AIを活用したSNS情報の抽出手法の検証

様々なデータを収集し、複数のデータを連携させた高度な分析・研究を実施

## 1 人工知能（AI）を用いてSNS情報を抽出・蓄積

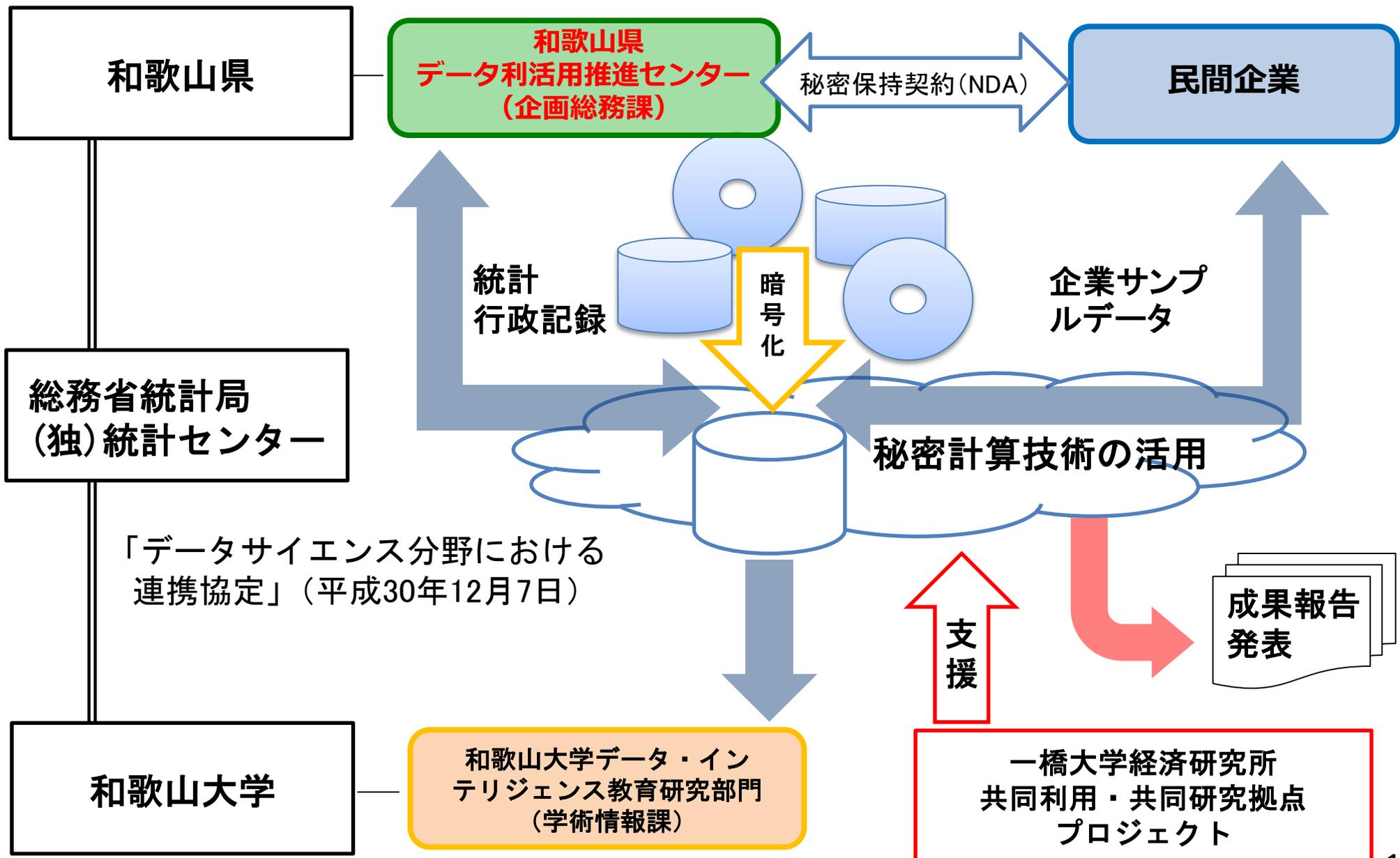
- ① AIを活用しビッグデータから抽出した情報の評価・蓄積
- ② 新たな観光施策の検討や県内企業の競争力強化に役立つ研究・分析に活用



県内の大学生がデータ評価に参加できるインターンシップ制度を創設

人材育成

# 秘密計算技術を用いた官民データの融合研究



# 安全性を確保した秘匿化技術の実用化に向けた調査・研究

一橋大学経済研究所 共同利用・共同研究拠点プロジェクト

平成29年度採択プロジェクト

「大規模な政府統計データを用いた秘密分散・秘密計算技術に基づく結果表および回帰モデルの実証分析」 (NTTセキュアプラットフォーム研究所)

研究 NTTセキュアプラットフォーム  
一橋大学経済研究所  
総務省統計研究研修所  
(独)統計センター

機能強化プロジェクト

秘密分散・秘密計算システム

匿名データ等利用推進ワークショップ

協力

和歌山県 データ利活用推進センター

連携

秘密計算技術の活用に関する検討会

NTT

2017.10 秘密分散技術の国際基準に  
NTTの技術が採択 (初)

2018.8 秘密計算システム「算師」  
無償の試用提供開始

# EBPMの促進(公募型研究の実施)

## ◇データを利活用した公募型研究事業

全国の研究者等を対象に、データを利活用した公募型研究を実施し、エビデンスに基づく行政を推進。

年度	研究テーマ	研究者
H29年度	①「和歌山県の過疎地域における集落の維持・活性化と再編」 ②「和歌山県の健康寿命の延伸」	①大阪市立大学 ②東海大学
H30年度	①和歌山県におけるベンチャーエコシステムの形成に向けて ～和歌山県の第二創業の実態～ ②和歌山県における食品ロスの削減に向けて	①筑波大学 ②和歌山大学
R01年度	①和歌山県内の薬剤師及び薬局の現状と今後10年先までの 将来動向 ②和歌山県における地域経済ハザードマップの開発	①久留米大学 ②名古屋大学

# 連携・支援(協定の締結)

◇総務省統計局、(独)統計センター、和歌山大学、和歌山県がデータサイエンス分野における連携協定を締結(平成30年12月7日)

## 【協定内容】

- (1) データサイエンス人材の育成及び教育開発に関する事項
- (2) データ利活用に関する研究開発に関する事項
- (3) その他本協定の目的を達成するために必要な事項

四者が連携し、初級から上級までのデータサイエンティストの育成や教育開発、データ利活用に関する研究開発を共同で実施することで、我が国のデータサイエンス分野の発展に資する和歌山モデルの構築に取り組む。



## 3つの組織が連携し、データサイエンス分野の人材育成や分析・研究を推進

### 総務省統計局・(独)統計センター 統計データ利活用センター

公益性を有する研究等に、統計マイクロデータ(調査票情報)を提供

### 和歌山大学 データ・インテリジェンス教育研究部門

ビッグデータ解析やIoTシステム構築技術、人工知能技術などに関する教育研究を推進

### 連携協定を締結 (2018年12月)

### 和歌山県 データ利活用推進センター

著名なデータ分析の専門家を顧問として迎えデータサイエンティスト2名を配置



# 連携・支援(協定の締結)

◇総務省統計局、(独)統計センター、和歌山県、和歌山市及び国立大学法人  
東京大学がデータ利活用に係る連携協力に関する協定を締結

(令和元年6月26日)

## 【協定内容】

- (1) 地域の現状把握に関すること。
- (2) 地域課題の見える化に関すること。
- (3) 課題解決手法の検討に関すること。
- (4) 統計データや行政保有データ、ビッグデータの融合  
やその利用に関すること。
- (6) 自治体職員の能力開発に関すること。

◇総務省統計局、(独)統計センター、和歌山県及び滋賀大学がデータサイ  
エンス分野における連携協定を締結 (令和元年11月25日)

## 【協定内容】

- (1) データサイエンス分野における研究等に関する事項
- (2) データサイエンス・EBPMに資するデータ利活用推進  
に関する事項
- (3) 産学官連携によるデータ利活用推進に関する事項
- (4) データサイエンス分野における人材育成及び人材交  
流等に関する事項



# EBPM推進体制の構築(管理・運用体制の強化)

## 庁内各課にEBPM管理者を設置しEBPM推進体制を構築

※全国初

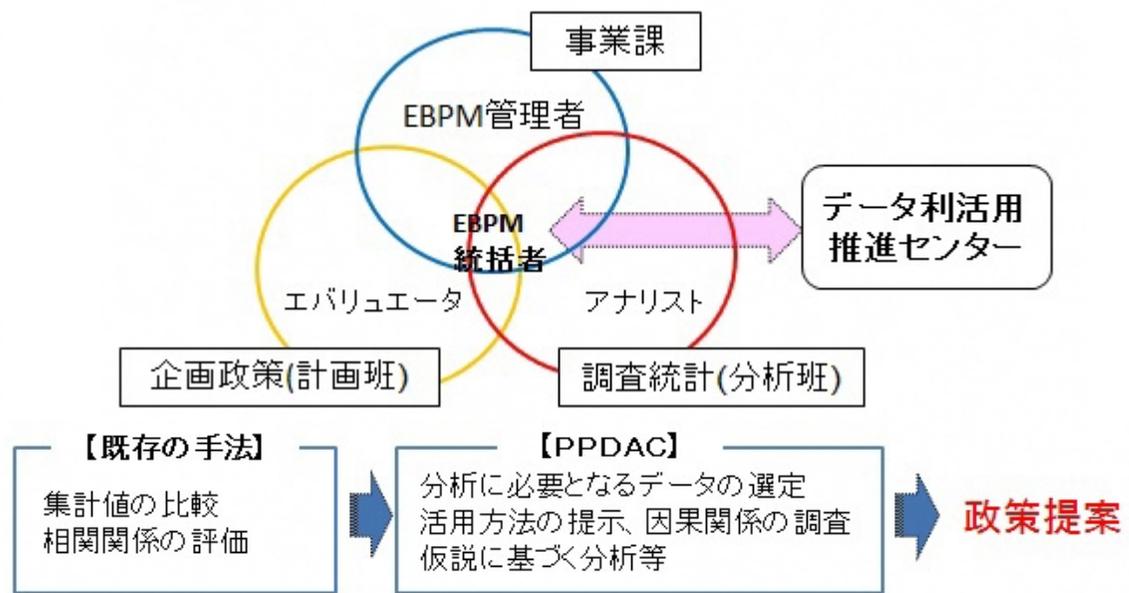
◇ 「和歌山県EBPM統括者等設置要綱」を制定(平成31年4月1日施行)  
 公的統計をはじめとする様々なデータを積極的に活用し、証拠に基づく政策立案(EBPM)を推進するため、EBPM統括者、EBPM統括者補佐及びEBPM管理者を設置。

これまで行ってきた集計値の比較や相関関係中心の課題分析により政策立案する方法から、課題認識の適正性や有効性を統計データの分析結果等により裏付け、政策と効果の因果関係を検証したうえで政策立案する方法への転換を図る取組。

和歌山県EBPM統括者等設置要綱  
 (目的)  
 第1条 公的統計をはじめとする様々なデータを積極的に活用し、証拠に基づく政策立案(以下、「EBPM」という。)を推進するため、EBPM統括者、EBPM統括者補佐及びEBPM管理者(以下、「EBPM統括者等」という。)を置く。  
 (業務)  
 第2条 EBPM統括者等は、これまで行ってきた集計値の比較や相関関係中心の課題分析により政策立案する方法から、課題認識の適正性や有効性を統計データの分析結果等により裏付け、政策と効果の因果関係を検証したうえで政策立案する方法への転換を図るものとする。  
 (EBPM統括者等の設置)  
 第3条 EBPM統括者等は、次の表の左欄に掲げる区分に従い、それぞれ同表の右欄に掲げる職員をもって充てる。

区 分	充てる職員
1 EBPM統括者	企画総務課長
2 EBPM統括者補佐	和歌山県データ利活用推進センター顧問
3 EBPM管理者	本庁各課室の副課室長(副課室長の設置されていない課室にあっては各課室長の指名した者)

(業務内容)  
 第4条 EBPM統括者は、次の各号に掲げる業務を行うものとする。  
 (1) 政策立案にあたってのEBPMに関する総合評価及び助言  
 (2) EBPM推進に関する教育及び啓発  
 (3) その他EBPM推進に関すること  
 2 EBPM統括者補佐は、EBPM統括者を補佐する。  
 3 EBPM管理者は、次の各号に掲げる業務を行うものとする。  
 (1) 当該課室の政策立案にあたってのEBPMに関する評価及び助言  
 (2) 当該課室の職員に対するEBPM推進に関する教育及び啓発  
 (EBPM管理補助員)  
 第5条 EBPM管理者の業務を補助するため、EBPM管理補助員を置く。  
 2 EBPM管理補助員は、EBPM管理者が管轄する課室等の職員の中から必要数を選任する。  
 3 EBPM管理補助員は、EBPM管理者の指示を受けて、前条第3項に定める業務を補助する。  
 附 則  
 この要綱は、平成31年4月1日から施行する。



# EBPM推進体制の構築(業務改善)

## 新政策プロセスにおける業務改善

### 1. 現状・課題

- (1) 長計の進捗管理と政策立案のリンクが不十分
- (2) データの収集・分析が不十分

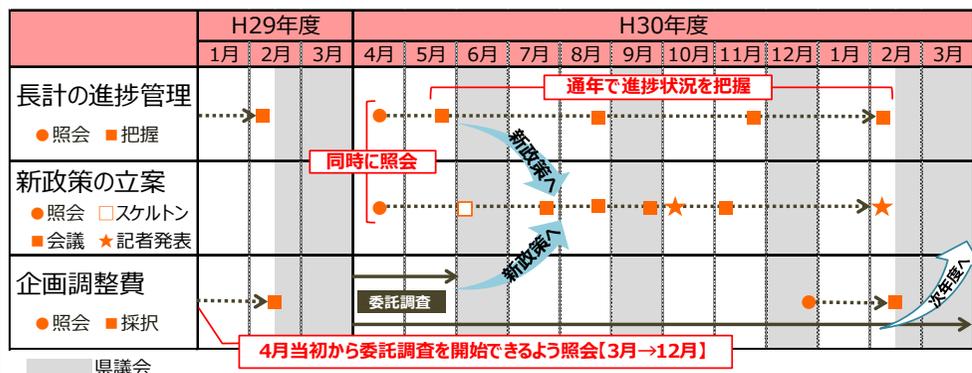
### 2. 業務改善の方向性

- (1) 長計進捗管理と政策立案の相関性を強化
  - ① 長計の進捗状況を通年で把握 ←【実施済み】
  - ② 企画部から積極的に新規施策等を提案 ←【実施済み】
  - ③ 特に進捗が遅れている指標は、所管部における原因分析を強化し、既存施策を徹底見直し（統一様式で対処案を作成）

※部長会議を利用し、特に進捗が遅れている長計指標に関する施策体系や新たに直面した大きな課題等について、次年度以降の方向性を協議

#### (2) エビデンスに基づく政策立案を強化

- ① 県勢活性化企画調整費の有効活用
- ② データ利活用推進センターにおいて高度な分析を支援



## 新政策プロセスのイメージ

### 長計のめざす将来像に向けた取組（施策体系）

